主日礼拝

2023年7月2日（日）

題 「一つになって」

テキスト：使徒言行録2章43～47節

皆さま、おはようございます。

今日の聖書個所の小見出しには、本来の聖書原典にはないのですが、「信者の生活」というタイトルがつけられています。聖書の翻訳者が、その個所の内容が大まかに分かるようにと親切につけたものです。

神の力である聖霊がくだり、地上に教会が誕生しました。

その時の様子を聖書記者ルカは伝えているのです。

生まれたての地上の教会のことを想像しながら学びたいと願います。

実は先週読まれた個所、今日の聖書の個所のすぐ前にも記されていますが、イエスの弟子のペトロの語ることを聞いた人たちの中には、彼の語ることを受け入れた多くの人たちもいたようですが、ペトロの語ることを信じない多くの人たちもいたと思われます。「41:ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。」かなり多くの人たちがイエスをキリスト、主と信じて洗礼を受け、その数は3千人ほどと言われます。これは数字そのものではなく、かなりの人たちがペトロの語る言葉を受け入れて弟子たちの仲間に加わったということだと理解します。

そして集まった人たちは、

42:彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。ここには、教会で行われた具体的な内容が伝えられていると思われます。ちなみに教会ということばは、ギリシア語では、エクレシアと言われます。エクレシアという言葉の意味は「呼び集められた者たち」という意味です。つまり、神さまによってイエス・キリストの名のもとに、呼び集められた者たち、それが本来の教会という意味なのです。このことは時代は変わっても、時代状況がどのようになっても、変わることはない、忘れてはいけないことであり、また伝えて行くべきことなのです。ちなみに洲本教会は今年教会創立120周年を迎えます。

120年前にこの地に「呼び集められた人々」が起こされてキリストにつながる交わりが生まれ与えられたということなのです。

聖書によれば、その呼び集められた者たちは、何をするのか、それは「使徒の教え」であり、使徒の証だと言えます。イエスさまは書いたものは何も残さ

れなかったのです。ですからイエスさまのことばや不思議な行いを聞いたり体験したり見たりした人たちの証、証言が後に新約聖書としてまとめられたのです。また救い主を待望する文書として旧約聖書があります。ちなみにイエスにつながる者たち、つまり教会の働きとして大切なことは三つあると言われます。第1は、ギリシア語で「ケリュグマ」と言われる礼拝を中心とする「宣教」です。ナザレのイエスが神の子キリスト、救い主であることを語ることです。二つ目は「コイノニア」と言われます。それは「信徒の交わり」です。三つ目は「ディアコニア」と言われる、教会に内と外に向けた奉仕です。宣教・交わり、奉仕。

ケリュグマ、コイノニア、ディアコニアを覚えておきたいものです。

呼び集められた者たちの間で、第一に礼拝が行われました。礼拝を始めとして、様々な方法で、イエスさまのことば、聖書のことばの生きた学びがなされます。

「相互の交わり」、信徒同志の交わりも大切なことです。教会は礼拝と信徒の交わりだと言えます。そして「パンを裂くこと」聖餐式を大切にします。そして共に食することの大切であることをなことを体験するのです。洲本教会でも5月には、ペンテコステを記念して、お祝いのお茶のひとと時を持ちました。長くコロナ禍で一緒にお茶を飲むことができませんでしたので、久しぶりのことで喜びに包まれました。教会では共に食すること、これは本質的に大切なことなのです。

そして、常に祈ることです。呼び集められた交わりは、祈りを大切にする交わりなのです。

今日読まれた個所のことばも、生まれたての群れ、教会が大切にしていたことなのだと思います。43節～47節の短い個所です。

43:すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業と

しるしが行われていたのである。この「恐れ」は、弟子たちによる不思議な業やしるし、神さまの働きかけに対しての、神さまへの畏敬の念を持つことでした。

教会では時に思いもよらぬ不思議なことが起こるのです。

「すべての人に恐れが生じた。」神さまを畏れ敬うことが一番なのです。

そうしないとそれ以外の事が一番になってしまうからです。

それは偶像礼拝の過ちを起こしてしまいます。

以前、聞いたことで忘れられないのですが、ある教会が会堂建築をした時、スリッパの色を赤にするか緑にするかでもめたということでした。きっと人間関係にしこりが残ったかもしれません。

このような問題がどうしてもよいと言うことではなく、どうして揉める前で祈って話しあって解決できなかったのかということです。後から考えて見れば、それ程大切でもなかったことが、その時は一番の問題になり群れの交わりを壊してしまうこともあるのです。信徒の中に、神へのとりなしの祈りを捧げる人たちが必要なのです。

神を第一とする考えに生きる、イエスにある群れの基本でもあると思います。イエスさまの言葉として、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすればこれらのものはみな加えて与えられる。」とあります。

44:信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、

45:財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そのようなこともあったのだと想像します。

これは互いに分かち合おうとする愛の精神から出くる行いだと思います。

これは決して自己所有を否定するというのではなく、互いの自由な心と意思から出てくる愛の行いだと思われます。「44:信者たちは皆一つになって、」とありますが、イエスに心を向けることによって一つとなるのです。

後の信者たちは、週に1回は集まり神を礼拝し、主イエスにあって信者の心が一つになって行ったのです。麗しい交わりの姿だと思われます。

「46:そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まっ

てパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、」と記されています。

生まれたての信徒たちは、ユダヤ教の神殿で神さまを礼拝していたようです。この後、しばらくしてキリスト教の礼拝堂も誕生したと思われます。また自分の家を神を礼拝する場として用いることもあったようです。「家の教会」という言葉もあります。

世界には、そのような形のキリスト教会もあるようです。家の教会は、主イエスのことば「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」(マタイ 18章 20節)との言葉を思われます。神に招かれ、主イエスにつながり礼拝する信徒の交わりは、何と麗しいことかと思われます。

歴史を見れば、イエスの弟子たちの働きによって、イエス・キリストの名は各地に広がって行きましたが、ある書物によれば、この後、ローマ帝国下のキリスト者に対する厳しい迫害の下で、反対にキリスト教がローマ全体に広がって行ったのは、キリストにつながる女性たちの働きが大きかったということが記されていました。イエスの群れの内だけではなく、外に向かったの愛の奉仕

(ディアコニア)の働きなどが回りの人々、地域の人々に社会的に良い印象と影響を与えて行ったようです。

今日の聖書のことばの最後の節47節には、

「47:神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」と記されています。イエスにある群れが、心を合わせる時、そこに愛のつながりが生まれ広がっていくのだと思わされます。たとえば、洲本教会に神さまが教育キャンプ場を与えられたことには大きな意味があることのように思わされます。

主イエスにある群れは、たとえ迫害や伝道の困難な状況に中にあっても周りに広がって行ったこと、そして周りの人たちが集まって来たことを覚えて、今後の洲本教会も主イエスを中心とする宣教・交わり、奉仕。ケリュグマ、コイノニア、ディアコニアの働きを大切にしながらイエスにある交わりを大切にしていって行ければと思わされます。

皆様の上に主の平安を祈ります。共に黙想しましょう。